

令和3年度 釧路工業高等専門学校数理・データサイエンス・AI教育プログラム  
(リテラシーレベル) 自己点検・評価

自己点検・評価の視点	自己評価	理由
1 プログラムの履修・修得状況	A	全分野の学生に対しリテラシーレベルの科目を開設している。本教育プログラムに関わるすべての科目を必修としていることから学生全員がプログラムを履修している。
2 学修成果、学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	B	授業評価アンケートにより学生は学習・教育目標の達成度の自己評価を行っている。教員は、これらの結果により、学生の授業内容の理解度を把握することができている。
3 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度、全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	A	本プログラムに関わるすべての科目を必修としていることから、平成29年度以降に入学した学生のプログラム履修率は100%となっている。
4 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	C	従来実施している卒業生アンケート等を通じて、今後、本教育プログラムに関して調査等を行う。
7 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	C	運営諮問委員会においてプログラム内容・手法等への意見を伺う予定である。
8 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	B	リテラシーレベルの教育プログラムを1年生から5年生まで配置することで、早い段階から興味・関心をもとせるとともに、高学年で各自の専門分野を学びながら数理・データサイエンス・AIに関する「学習の意義」を理解できるようにしている。また、学生からの授業評価アンケートに対して教員がステップアップ提案書を作成することで、より「分かりやすい」授業になるような体制ができている。

A：自己点検・評価の視点を上回る成果を達成できた。

B：自己点検・評価の視点の通り、成果を達成できた。

C：自己点検・評価の視点の通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：自己点検・評価の視点の水準まで成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。

令和3年度 釧路工業高等専門学校数理・データサイエンス・AI教育プログラム  
(応用基礎レベル) 自己点検・評価

自己点検・評価の視点	自己評価	理由
1 プログラムの履修・修得状況	A	情報工学分野と電子工学分野の学生に対し応用基礎レベルの科目を開設している。当該分野において本プログラムに関わるすべての科目を必修としていることから学生全員がプログラムを履修している。
2 学修成果、学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	B	授業評価アンケートにより学生は学習・教育目標の達成度の自己評価を行っている。教員は、これらの結果により、学生の授業内容の理解度を把握することができている。
3 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度、全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	A	本プログラムに関わるすべての科目を必修としていることから、平成29年度以降に入学した学生のプログラム履修率は100%となっている。
4 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	C	従来実施している卒業生アンケート等を通じて、今後、本教育プログラムに関して調査等を行う。
7 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	C	運営諮問委員会においてプログラム内容・手法等への意見を伺う予定である。
8 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	B	低学年で数学やアルゴリズムなどの基盤的な知識・技能を身につけたうえで、高学年で各自の専門分野を学びながら数理・データサイエンス・AIに関する「学習の意義」を理解できるようにしている。また、学生からの授業評価アンケートに対して教員がステップアップ提案書を作成することで、より「分かりやすい」授業になるような体制ができている。

A：自己点検・評価の視点を上回る成果を達成できた。

B：自己点検・評価の視点の通り、成果を達成できた。

C：自己点検・評価の視点の通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：自己点検・評価の視点の水準まで成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。